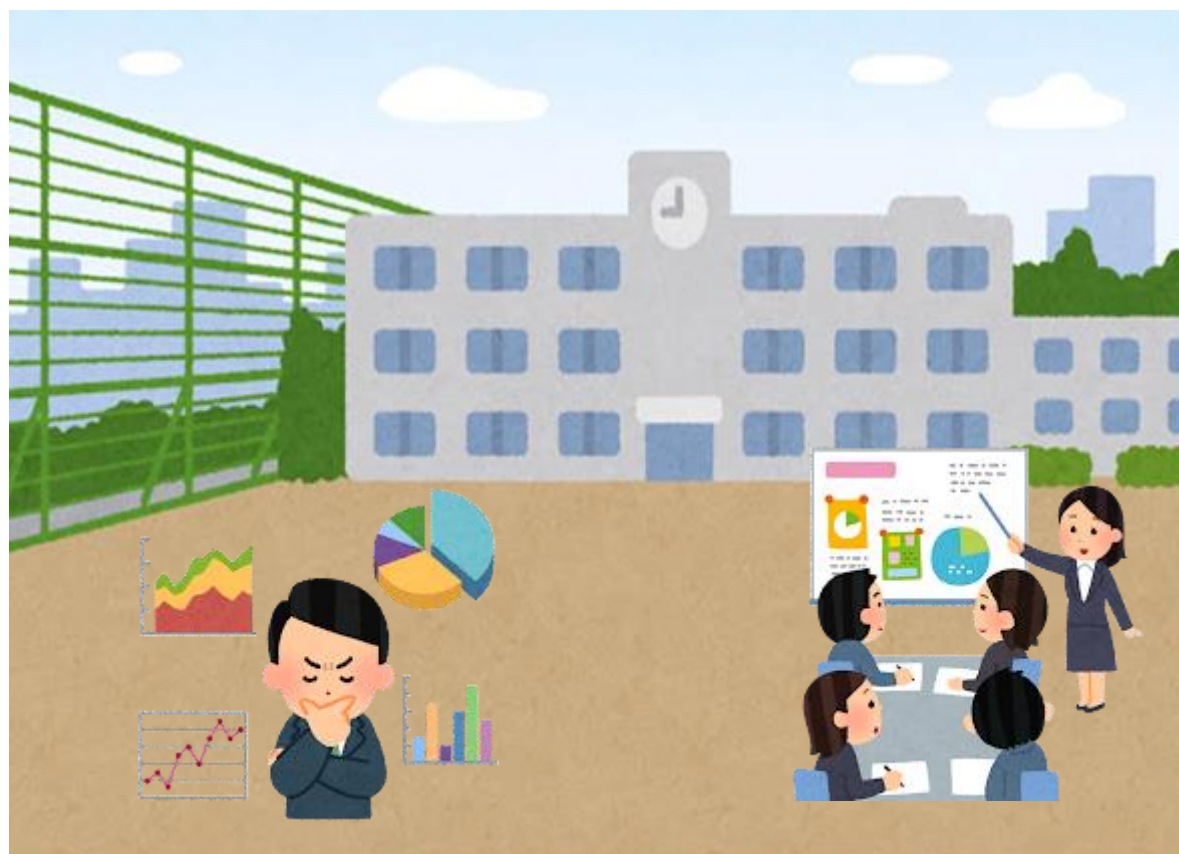


一般社団法人 旭川ウェルビーイング・コンソーシアム

2023年度

# 合同成果発表会抄録集



令和6年1月21日(日)

イラスト：@いらすとや

VAB

# 目 次

NO	演 題 ・ 所 属 ・ 氏 名	頁
1	<p>運動会の意義を踏まえた今後の実施への提案</p> <p>北海道教育大学旭川校 保健体育分野3年 体育心理学ゼミナール 藤原 音々</p>	5
2	<p>初めてのスケート滑走にスキー経験は役に立つのか？</p> <p>北海道教育大学旭川校 保健体育分野3年 運動学ゼミナール 井上 嶺、織田 遥大、小高 英樹、宮崎 結子</p>	5
3	<p>冷房施設のない学校を模した暑熱環境下における簡便な冷却法が温熱感覚に及ぼす影響</p> <p>北海道教育大学旭川校 保健体育分野3年 運動生理学ゼミナール 池田 奨、木津 健斗、七宮 陸斗、平井 尊</p>	5
4	<p>知的障害当事者と同居している家族が抱える親亡き後への 思いと居住支援における課題</p> <p>旭川市立大学保健福祉学部コミュニティ福祉学科3年 長濱ゼミナール 熊谷 鈴夏、福原 知謹</p>	6
5	<p>地域のまちづくり活性化活動「きらきらいせつプロジェクト」実践報告</p> <p>旭川市立大学経済学部経営経済学科3年 黒川ゼミナール 新堀 朱人、有持 綾朋、麻木 洸星</p>	6
6	<p>メタルマスクを用いて作製したコンデンサとその電気的特性</p> <p>旭川工業高等専門学校 生産システム工学専攻1年 中島 渉</p>	7

7	<p>CNT 配向膜を用いた CNT-Si 太陽電池の試作と評価</p> <p>旭川工業高等専門学校 生産システム工学専攻1年 高橋 飛翔 生産システム工学専攻1年 川上 佳悟</p>	7
8	<p>月経前症候群(PMS)に関する男性の認識についての文献検討—和英文献による比較—</p> <p>旭川医科大学医学部看護学科4年 落合 花夏、小峰 音葉、星野 空</p>	7
9	<p>臨床における看護師の非言語的コミュニケーションの実践—職務経験10年以上の看護師へのインタビューを通して—</p> <p>旭川医科大学医学部看護学科4年 島津 奈々子、高石 桃加</p>	8
10	<p>新型コロナウイルス感染症流行下における医療系大学の授業形態による学生の満足度評価—看護学生と医学生を対象に—</p> <p>旭川医科大学医学部看護学科4年 柴田 瞳、高宮 百優</p>	8
11	<p>物価変動の真実と私たちの対応策～地域活性化プロジェクトから～</p> <p>旭川市立大学経済学部経営経済学科3年 江口ゼミナール 天野 滉太、川本 拓実、本間 奨規、諸伏 直人</p>	9

## 北海道旭川西高等学校2年生

NO	演 題 ・ 所 属 ・ 氏 名	頁
12	<p style="text-align: center;">水を利用し教室を快適にできる</p> <p>旭川西高等学校2年理数科 浅見 優衣、岡村 芽依、須見 詩織、田中 美羽、谷口 奏音</p>	10
13	<p style="text-align: center;">平面幾何学を用いた曲作り</p> <p>旭川西高等学校2年理数科 生駒 大翔、窪田 龍太郎、鎌田 大地、伊藤 壮琉、鈴木 一平</p>	10
14	<p style="text-align: center;">コウジ菌の違いによるタンパク質分解能力の比較</p> <p>旭川西高等学校2年理数科 中谷 果瑛、荒川 瑠奈、澤田 絃伽、久保 琴葉、澤田 絃伽 浜田 拓音</p>	10
15	<p style="text-align: center;">同性婚どう成功！？</p> <p>旭川西高等学校2年普通科 山路 小梅、五十嵐 悠斗、塚本 零来、渡未 将真、小野 葵衣</p>	11
16	<p style="text-align: center;">旭川の公共交通機関と車椅子利用者</p> <p>旭川西高等学校2年普通科 藤倉 美桜、辰巳 瑛太、寺島 花厘、田中 奈帆、谷藤 翔太郎</p>	11

# 演 題

## 1. 運動会の意義を踏まえた今後の実施への提案

所 属： 北海道教育大学旭川校

氏 名： 保健体育分野3年 体育心理学ゼミナール 藤原 音々

近年、運動会はその在り方が変容している。1990年代には競争を疑問視し順位をつけずに運動会を実施する動きが見られた。コロナ禍においては各学年入れ替え制での実施など規模が縮小される場合が多くあった。しかしこの変容は運動会の意義を疎かにしてはいないだろうか。そこで、本研究では運動会の意義を見直し、大学生を対象とした実験的な運動会の実施を踏まえ、運動会の今後の在り方について提案することを目的とする。

## 2. 初めてのスケート滑走にスキー経験は役に立つのか？

所 属： 北海道教育大学旭川校

氏 名： 保健体育分野3年 運動学ゼミナール 井上 嶺、織田 遥大  
小高 英樹、宮崎 結子

旭川市内の小中学校では、地域特性を活かしたスポーツとして体育授業でスキーが採用されており、多くの市民がスキーを経験してきている。したがって、市民をスキー派とスケート派に分ければスキー派が多いと予想される。厳冬期に健康的な運動習慣を維持するためには、活動の選択肢は多い方が望ましい。そこで、スキー派の人々にスケートも試して欲しいとの思いから、スキー経験がスケートにも役に立つことを実験的に確かめた。

## 3. 冷房施設のない学校を模した暑熱環境下における簡便な冷却法が温熱感覚に及ぼす影響

所 属： 北海道教育大学旭川校

氏 名： 保健体育分野3年 運動生理学ゼミナール 池田 奨、木津 健斗  
七宮 陸斗、平井 尊

温暖化が進んでいる日本において、北海道も例外ではなく昨年は伊達市の小学2年生女児が授業後に熱中症で亡くなった。北海道の小中学校の冷房設置率は約15%と全国平均(約95%)よりも低く、授業を安全・快適に行うためにはどの学校でも簡単に介入できる冷却方法の開発が急務である。本研究では公立小学校の普通教室の温度を測定し、暑熱対策として水分補給と併用して手掌・首冷却を行い、熱的快適性と温度感覚に及ぼす影響を検討した。

## 4. 知的障害当事者と同居している家族が抱える親亡き後への思いと居住支援における課題

所 属:旭川市立大学保健福祉学部コミュニティ福祉学科3年生  
長濱ゼミナール

氏 名: 熊谷 鈴夏、福原 知謹

長濱専門ゼミナールでは主に知的障害を抱えている当事者とその家族に目を向けその相互作用への分析と考察をし、よりよい社会環境を目指す事を理念の基に活動している。今期研究としては、知的障害を抱えている当事者のご家族に関して文献を通じた学習及び抄読会、及びその学習を踏まえた当事者家族への個別インタビュー調査による質的研究の実施、現在は、量的研究として進めるためにアンケート調査の準備に取り組んでいる。

## 5. 地域のまちづくり活性化活動「きらきらいせつプロジェクト」実践報告

所 属:旭川大市立学経済学部経営経済学科3年 黒川ゼミナール

氏 名: 新堀 朱人、有持 綾朋、麻木 洸星

黒川ゼミでは今年からイオン北海道の方々ときらきらいせつプロジェクトという地域のまちづくり活性化を目的とした様々な活動を行ってきました。はじめはイオンモール旭川西店様の方で地域の方とのワークショップを通して好きや得意を活かしたお店の中でやってみたいことを考え意見交換をしました。その中でイオンモール旭川永山店様とイオンモール西店様の方で子供縁日とラグビー体験を行いました。



## 6. メタルマスクを用いて作製したコンデンサとその電気的特性

所 属：旭川工業高等専門学校

氏 名：生産システム工学専攻1年 中島 渉

力と電気を変換できる圧電体薄膜はMEMSの駆動源やセンサーへの応用が期待されている。薄膜の誘電率の変化をコンデンサの静電容量から見積もるために、コンデンサ構造を、フォトリソなどの半導体プロセス技術を使うことなく実現する方法を検討した。コンデンサを構成する2つの電極が電気的に分離した構造を作製する技術を確立した。発表では、メタルマスクを使ったコンデンサの作製方法と作製したデバイスの特性について述べる。

## 7. CNT 配向膜を用いた CNT-Si 太陽電池の試作と評価

所 属：旭川工業高等専門学校 生産システム工学専攻1年 高橋 飛翔

氏 名：生産システム工学専攻1年 川上 佳悟

本研究では、よく制御されたろ過法を用いてカーボンナノチューブ(CNT)を良く配向させた膜を作成し、CNT-Si 太陽電池に応用することで高性能太陽電池の実現を目指している。これまでに高配向 CNT 膜を成膜でき、Siと接合させることで太陽電池を試作に成功した。現段階では、試作した太陽電池の変換効率は数%程度であり、他の電池特性においてもばらつきが大きいいため、デバイス作製プロセスの改善が必要であると考えている。

## 8. 月経前症候群(PMS)に関する男性の認識についての文献検討—和英文献による比較—

所 属：旭川医科大学医学部看護学科4年

氏 名：落合 花夏、小峰 音葉、星野 空

**目的:**女性の約半数は月経前症候群/月経前気分不快障害(Premenstrual Syndrome:PMS/ Premenstrual Dysphoric Disorder :PMDD)によって日常生活に困難を抱えている。本研究は日本と海外の文献を比較しPMSに関する男性の認識の違いを明らかにする。



**方法:**和英文献の検索から14件(和文献2件、英文献12件)を分析対象とし、PMSに関する男性の認識を抽出しカテゴリー化した。

**結果と考察:**和文献から月経の教育を受けた認識はあるがPMSを知っている男性は10%であった。英文献では、男性は女性がPMSを持つことや身体的変化を認識し、PMSが家族やパートナーに与える影響を理解して女性に向き合っていた。月経やPMSの認識は、文化や宗教との関わりが強いと考えられ、身体的症状と心理的側面に着目した教育を男女ともに実施し、知識の普及が必要である。

## 9. 臨床における看護師の非言語的コミュニケーションの実践—職務経験10年以上の看護師へのインタビューを通して—

所 属: 旭川医科大学医学部看護学科4年

氏 名: 島津 奈々子、高石 桃加

**目的:**看護師の非言語的コミュニケーションの実践を明らかにすることを目的とする。

**方法:**A病院の慢性期病棟に勤務する10年～15年目の看護師を対象に半構造化面接を行った。内容は患者とのコミュニケーションにおける非言語的要素の意識と活用方法とし質的記述的に分析した。

**結果と考察:**対象は看護師4名であった。臨床における非言語的コミュニケーションの実践方法として【対象者に合わせた活用】【場面に合わせた活用】【自己の考えに基づいた活用】があり、【きっかけとなる出来事によって身についた技術】【経験を重ねることによって身についた技術】【本来持っている自己の性質に基づいた活用】【学習や他者の姿に基づいた活用】が明らかになった。非言語的コミュニケーションの有効活用には、対象者の状況把握、一人ひとりの患者に合わせ、自分の受け止めが相手に伝わるよう意識することが重要である。

## 10. 新型コロナウイルス感染症流行下における医療系大学の授業形態による学生の満足度評価

### —看護学生と医学生を対象に—

所 属: 旭川医科大学医学部看護学科4年

氏 名: 栄田 瞳、高宮 百優

**目的:**新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大で大学では対面とオンライン授業が行われた。学生の満足度評価から、学びの方法に応じた授業形態を検討する。

**方法:**A医科大学看護学科2-4年生(計181名)と医学科2-4年生(計311名)のうち研究者を除いた490名を対象とした。2023年集合法により無記名自記式アンケートを配布し回収した。調査内容は座学、演習、グループワーク、発表それぞれ対面とオンラインのどちらが良いかとその理由、今後の授業形態の希望等とした。分析はExcelで単純集計しX2検定で学科別に比較した。

**結果と考察:**435名(回収率90.0%)の回答を得た。オンライン授業で困ったことがある者は300名(69.3%)であった。授業形態別の満足度は、オンラインが良いと回答した者は座学239名(54.9%)が多かった。X2検定による学科別比較では座学は有意差なく、演習・グループワークは両学科ともに対面が良い者が多く、看護学科の方が多かった。授業形態の希望は「座学のみオンライン」が136名(31.3%)と最も多かった。対面は「友達に会える」等の交流に利点を感じていた。オンライン授業は「移動時間を省ける」とされるが、効率と孤立感を覚えないことの両方を満たす必要性が示唆された。

## 11. 物価変動の真実と私たちの対応策～地域活性化プロジェクトから～

所属：旭川市立大学経済学部経営学科3年 江口ゼミナール

氏名：天野 滉太、川本 拓実、本間 奨規、諸伏 直人

私たち江口ゼミナールは“街の元気づくり”をテーマに、様々な活動を行っている。そのなかでラーメン出店での食材費やガソリン代、研究活動での用紙代などにより物価高を実感し、日々財布を脅かされている。しかし、自動販売機の飲料や電気代には大きな変化がみられない。現在、物価高が世間で騒がれているが、実際はどうなのか。物価変動の真実を得るために、過去10年のラーメン出店や研究活動、身近にあふれるモノの物価を調査した。その結果を発表する。

## 演 題

[北海道旭川西高等学校 理数科 2 年生]

### 12. 水を利用し教室を快適にできる

氏 名：浅見 優衣、岡村 芽依、須見 詩織、田中 美羽、谷口 奏音

教室を快適にする方法を探るためにカーテンと水に着目し、実際の教室や模型を使用して実験をした。教室を快適にするためには黒いカーテンを使用し、壁一面にうすく水をかけることが最も教室を快適にできる方法だとわかった。

### 13. 平面幾何学を用いた曲作り

氏 名：生駒 大翔、窪田 龍太郎、鎌田 大地、伊藤 壮琉、鈴木 一平

まず私たちは人気の音楽には何か共通点があるのではないかと考え、ヒットチャート(2021年～2022年11月)の上から10個を使い、論文(統計的学習に基づく音楽理論  $\sigma$ GTTM:局所的グルーピング境界の検出)を参考にリズム・メロディー・ハーモニーの共通点を見つけようとした。しかし、高校生の私たちにとってこの論文を読み解くことは難しかった。そこで、大学の先生の助言をもらい路線を変えて図形から曲を作ることにした。

### 14. コウジ菌の違いによるタンパク質分解能力の比較

氏 名：中谷 果瑛、荒川 瑠奈、澤田 紘伽、久保 琴葉、澤田 紘伽、  
浜田 拓音

麴で肉が柔らかくなることに着目して研究を開始した。7種類の麴を使用し、タンパク質の分解率を測定した結果、黒コウジ菌が最もタンパク質分解能力が高いことが分かった。

## 15. 同性婚どう成功！？

氏名：山路 小梅、五十嵐 悠斗、塚本 澪来、渡来 将真、小野 葵衣

私たちは多様性について理解を深めてもらうことを第一の目標に性的マイノリティに焦点を当て、パートナーシップ制度や同性婚をテーマに探究を行なった。アンケートを行い、具体的数値を得ることでなぜ日本に同性婚制度が導入されていないのか考察し理解が深まる方法を考えた。また、旭川市のパートナーシップ制度についてインタビューを行い、経緯などを伺った。今後の展望として、より多くの人に理解を深めてもらえるように発表などの活動をしていきたい。

## 16. 旭川の公共交通機関と車椅子利用者

氏名：藤倉 美桜、辰巳 瑛太、寺島 花厘、田中 奈帆、谷藤 翔太郎

旭川の公共交通機関で車椅子利用者が感じる不便な点を改善するという目的のもと、バス会社、車椅子製造会社、車椅子利用者にインタビューを行った。その結果、旭川は金銭面・法律面・時間面・気持ちの問題という4つの課題が明らかになった。また、実際に車椅子に乗ってバスの乗車を体験することで、車椅子利用者の気持ちを理解することができた。私たちは、この4つの課題の中でも特に気持ちの問題がバスを利用しにくくしている大きな原因だと考えた。今後は、より多くの人に理解が広まるような活動をして、車椅子利用者が生活しやすい社会に近づけていきたい。

VACB



一般社団法人 旭川ウェルビーイング・コンソーシアム

連絡先：旭川市1条通8丁目108 フィール旭川7階

電話：0166-26-0338

URL：<http://www.awbc.jp/>